

[青木さやかに完敗] 緊急検証! 巨人ファンはどこに消えた!?

WEEKLY 2500g巨大トンカツ、直径47cmラーメン…爆盛メニュー! 大集合

¥340

アムイボデー

5・3 No.18 特大号

仲根
かすみ
勝負
バスト!

プライベート
SEXY
小倉優子

濃厚ボディだ
井上和香

衝撃写真!
松田千奈

山田玲奈

森下千里

水着写真、
撮りました!

私は
オッパイ
星人!?

御礼! 写真集売り切れ

青木さやか

これがウワサの
「海ぶどう水着」だ!

緊急! 爆笑袋とし8P
彼女にも見せよう!(笑)

自衛隊よ、逆ギレ武装で

反日国家を黙らせる!

日本製品を買わない?
歴史教科書が
問題だって?

ガタガタ
うるせえー
んだよツ!!

事件の埋もれた真実

を徹底発掘!

ジャーナリスト黒木昭雄の

裏斬れ!! ニュースを

第20回



KUROKI AKIO

元警視庁巡查部長。57年生まれ。23年間の在職中に総監賞を23回受けるも、警察組織のあり方に疑問を抱き、98年に依願退職。ジャーナリストとして、警察の不正問題を追うなど、幅広いジャンルのテーマを取材。近著に「葬式の値段にはウラがある」(草思社)。

警官は盗撮しても無罪放免!? 県警の大アママ処分にも怒る!

またも警官による不祥事だ。今度は盗撮である。狡猾な手口の犯行に情状酌量の余地などないが、岩手県警の処分は驚くほど軽いものだった。いったい、なぜ!? 事件の顛末を追う!



警官としてあるまじき行為。被害者と県民のみならず、まに心よりおわび申し上げる。

岩手県警の小野寺英一首席監察官は、今月6日の記者会見で、こう言っ

て報道陣に頭を下げた。「警察官としてあるまじき行為」とは

いったいなにか? 受けとめ方によっては、「一般人なら許せるけど警察官はダメ」と言うよ

うにも聞こえる。それを言うなら、正しくは「人」としてあるまじき行為ではないのか?

思わずこう聞き返したくなるような、下劣で品性のかげらもない盗撮事件を、あろうことか、岩手県警の現職警察官が起こしてしまったのである。

事件は3月26日午後3時55分頃、盛岡市内の日用品量販店で起こった。起訴状などによると、岩手県警本部

の県民課音楽隊兼盛岡東署地域課の巡查部長、遠藤雅文容疑者(46歳)はこの日、買い物中だった宮古市内の公務員女性(28歳)の背後から近づいた。そして、傘の柄の先端部分に取りつけた「超小型カメラ」で女性のスカートの中を盗撮したのである。

ところが、傘の柄にレンズがあることに気づいた女性が「キャー、チカン!」と叫び、近くにいた数人の男性客が遠藤容疑者を取り押さえ、駆けつけ



ま ず、左ページの写真を見てください。これは、盗撮問題に詳しい私立探偵の平松直哉氏と

松本敬介氏に、私が依頼して作製してもらった「偽装盗撮器具」である。報道などをもとに忠実に再現したものであり、両氏によると、「これ以外には考えられない」というものだ。柄の先端部分に取りつけたファイバースコープ型CCDカメラは直径約7mm。ご覧のとおり、傘の柄と同色のビニールテープを巻きつければ簡単に見破ることはできない。松本氏は、この器具の使用手口を次のように推測する。

「おそらく犯人は傘を逆さまに持って、ゴルフのバットのまねをして女性

た警察官に突き出した。

調べに対し、遠藤容疑者は、「初めてやった。大変申し訳ないことをした」

と、「出来心」だったことを強調した上で容疑を認めたという。

しかし、ここに重大な疑問が残る。傘の柄に小型レンズを仕掛けるという、盗撮マニア顔負けの偽装技術を持つ遠藤容疑者の犯行は本当に出来心だったのか?!

に近づいたのでしょうか」

また、平松氏は、「CCDレンズは外づけ用ですから、レンズとカメラ本体は、袖の内側に隠された延長コードでつながっていたものと思われまます」

と、偽装カメラの構造を推測した。つまり、ふたりの見立てによれば遠藤容疑者は出来心ではなく、確信犯として罪を犯したことになる。

「だいたい、一本6万円もするようなCCDレンズを使うとはタダモノではありませんよ」（平松氏）

案の定、後の調べに対して遠藤容疑者は、同様の盗撮行為を以前にもしていたと認めている。つまり、常習犯の可能性もあるわけだ。

ところが、

県警本部が遠藤容疑者に下した処分は、

なんと「停職1ヵ月」。しかも、本人から申し出た「依頼退職」をすんなりと認めた。

つまり、遠藤容疑者にはおよそ1千万円の退職金が支払われることになる。「なぜクビにしないんだ！」

そんな怒りの声が県民から挙がるのは当然だが、この程度で驚いてはいけないのが、警察村の論理である。

盛岡区検は6日、遠藤容疑者を具迷感防止条例違反で盛岡簡易裁判所に略式起訴したが、同簡裁が下した略式命令は「条例の最高刑」といいながらも、たかだか「罰金10万円」だった。

こんなバカな話があるだろうか。れつきとした現職の警察幹部が、偽装した超小型カメラで女性のスカートの中

を盗撮したのに、だ。

ここで、元早稲田大学大学院教授の植草一秀氏の名前を出すのも忍びないが、彼が有罪となった犯罪と比較すると遠藤容疑者の処罰がいかに大アマカがわかるだろう。

存知のとおり、植草氏がソキに使用したとされているのは「手鏡一枚」。原始的な小道具だ。

対する遠藤容疑者が用いたのは、専門家に「確信犯」と言わしめるほどの偽装を施した「超小型ビデオカメラ」である。どちらがより悪質か、考えるまでもない。

それなのに、植草氏は早大を解職され、裁判で罰金50万円（プラス手鏡一枚を没収）の略式命令を受けた。一方、遠藤容疑者は前述のように停職1ヵ月の懲戒処分を受けただけで、

無事、依頼退職。罰金も植草氏の5分の1の10万円だった。

自治体によって迷感防止条例の内容が異なるとはいえ、罰金にこれほどの差が出たことには

驚くばかりだ。

遠藤容疑者への処分に対して、県警の佐藤善男監察課長はこう語った。

「処分は、他県の例などを総合的に判断した。警察に対する県民の信頼を裏切る行為で、再発防止策を徹底し不祥事の絶無を期す」

バカなことを言ってもらっては困るのだ。そもそも、警察官が盗撮すること自体、警察では想定していないはず。なのに、他県には参考になる例があるとこののだろうか？

まず、考え方を変えなければならぬのは、処分を下す立場にある佐藤監察課長、あなたのほうではないが。

私は常々、「警察官にもふつうの人間程度の人権を認めるべきだ」と主張してきた。それは、警察組織の行き過ぎた上意下達（じょういげくだつ）が警察官個々人の私生活まで脅かしているからだ。

しかし、一方で今回のような世間があきれ返る事件を起こす警察官もいる。だからこそ、そのような不届き者に

対しては、たとえ「見せしめ」と言われても、再発抑止効果への期待を込めて、「民間人の倍の量刑を科すべきだ」と指摘してきた。警察官には一般市民

より高い規範が求められるからである。その警察官が法を破る人間では国民が困るのだ。

その意味で、今回の大アママ処分を下した岩手県警の責任は重い。



多週の裏ヘッドライン
出来心ではなく
確信犯の犯罪だった！
マニア顔負けの
盗撮手口を再現！
それでも退職金は
約1千万円！

(上)報道をもとに遠藤容疑者が用いた盗撮カメラを再現！こんなに手の込んだものを使って、「出来心だった」とは…
(下)手鏡で女子高生のスカートの中をのぞいたととも明らかな悪質なのは誰が見ても明らかだろう ©共同通信社